

各位

～日本養鶏産業研究会（JPISTRA）・第5回研究セミナー開催のお知らせ～

（第二報）

主催：日本養鶏産業研究会（JPISTRA）

後援：福島県養鶏協会・株式会社PPQC

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

既に第一報にて、第5回のメインテーマについての主旨等をご案内申し上げます。今回、養鶏業界にとって最大の課題である鳥インフルエンザ（AI）問題を細分化し、産官学ならびに流通・消費者の各分野からパネラーとしてディスカッションに参加していただき、業界サイドのみならず、多角的な視点でAI問題を再考、総括したいと存じます。

各分野からご参加頂くパネラーの先生方は、交渉中の方々も含めて、次ページにご紹介致しました。

有意義な議論が展開されると期待されますので、皆様にはご多忙のところ大変恐縮ではございますが、多くの方々のご参加をお願い申し上げます。また、最新の情報については、PPQC ホームページ (<http://www.ppqc.co.jp>) に順次アップデートする予定ですので、そちらも併せてご参照願います。

開催日時

第一日目 平成19年10月24日（水曜日）午後1時30分～5時00分

第二日目 平成19年10月25日（木曜日）午前9時00分～午後4時30分

1 開催要領

(ア) セミナー会場

陽日の郷_あづま館コンベンションホール

福島県二本松市岳温泉、TEL：0243-24-2211

アクセス：（詳細は別紙）新幹線郡山駅・福島駅に送迎バス、在来線二本松駅に乗用車をご用意させていただきます。

(イ) 宴会・宿泊

東三番館（セミナー会場と棟続きの姉妹館にてセミナー終了後係りのものをご案内いたします。

(ウ) 参加費

一人 金25,000円（口演要旨代金・宿泊費を含む）

但し、宿泊を希望されない参加者は一人 金15,000円

二日目の昼食をご希望の方は総合受付で引換券（1,050円）をご購入いただきます。又、ホテル内のレストラン・ラーメン店等もご利用できます。

(エ) 参加申し込み

別添のセミナー参加申込書を下記、事務局宛 FAX 又は郵送にてご返送頂きたくお願い申し上げます。

(オ) 事務局・担当者

(株)ピーピーキューシー研究所内 奥田和久・佐藤美佳

TEL：(代表) 0243-24-2523 FAX：0243-24-2657

2 セミナーの概略

パネラー予定者

司会：加藤宏光 先生（本会代表 農学博士 獣医師）

- 1) AI 発生県の家畜保健所の先生に交渉中です。
地元・福島県の家畜保健所からも数名参加を要請中です。
- 2) 学識経験者：伊藤壽啓 先生（鳥取大学 教授 鳥由来人獣共通感染症疫学センター所長）
- 3) 学識経験者：品川邦汎 先生（岩手大学 教授 獣医微生物学）
- 4) 行政：押川延夫 先生（宮崎県農政水産部畜産課家畜防疫対策監）
- 5) 臨床獣医師：合田光昭 先生（愛知県経済農業協同組合連合会 農畜産物衛生研究所 技術参与）
- 6) 流通関係者：伊藤正史 様（イトヨーカ堂 QC 室 食品担当総括マネージャー）
- 7) 流通関係者：原 英二 様（東京マイコプ 運営担当理事付）
- 8) 流通関係者：坂野清子 様（東洋キトクフーズ株式会社）
- 9) 消費者：和田 正江 様（主婦連合会 参与）

その他）当日は、本年初頭に高病原性鳥インフルエンザの発生があった宮崎県ならびに岡山県で被害を受けた生産者の方々もご参加頂ける予定です。

<プログラム>

第一日目（10/24 午後）

宮崎県ならびに岡山県で発生した高病原性鳥インフルエンザ（2007年）の総括

- （1）発生地域における被害の実態・聞き取り調査報告の紹介
加藤宏光 先生（本会代表）
- （2）発生県における行政処置について
発生県の行政担当者交渉中
- （3）パネルディスカッション
 - a) 被害の全体像を掘り下げる
 - b) 経済的な側面から総括する
 - c) 流通・消費者のサイドからの印象
 - d) マスコミ対応
 - e) その他

第二日目 (10/25)

今後の高病原性鳥インフルエンザ対策を議論する (仮題)

- (1) 海外の AI 発生状況報告及実態調査報告
講演者選定中
- (2) 日本の行政処置に対する海外の評価
加藤宏光 先生 (本会代表)
- (3) 総合討論
 - a) 科学的側面＝病原性&伝染性の判断、感染経路の究明、ワクチン効果の判断など獣医師等の科学者が判断すべき要素。ヒトへの感染の可能性。
 - b) 行政的側面＝検疫範囲の設定、各種の行政対応 (淘汰/ワクチン使用/出荷制限/許可)、公衆衛生分野との連携など。
 - c) 経済的側面＝直接被害を受けた生産者への補償、間接被害の生産者への補償は？ 商圏の維持、確保。
 - d) マスコミ対応＝一般マスコミ (TV・新聞等) の過剰な報道、誤解を招くような記事 (週刊誌等)
 - e) 生産者側からの要望＝自助努力 (業界・個別) としては何が必要か？ 消費者・流通関係者にお願いしたい事。
 - f) 消費者サイドの印象とご意見

※なお、プログラムの最新情報については、PPQC のホームページ (<http://www.ppqc.co.jp>) で日本養鶏産業研究会のページに順次アップデートする予定ですので、そちらも併せてご参照願います。

第5回 日本養鶏産業研究会・参加申込書

(平成19年10月24日・25日開催、福島県二本松市岳温泉、ホテル陽日の郷あづま館)

下記の通り研究会の参加を申し込みます。

平成 19 年 月 日

御社名：

住所：〒

電話：

FAX：

Eメールアドレス：

以下該当箇所を○で囲ってください

◆ 出欠： 参加 不参加

◆ 参加人数： 人

◆	参加者ご芳名	役職	宿泊
1)			(有 無)
2)			(有 無)
3)			(有 無)
4)			(有 無)

◆ 第2日目のご昼食について○で囲ってください

希望しない 弁当を希望します (名分)

◆ 送迎のご希望について○で囲ってください。

送迎を希望しない

送迎を希望します

お迎え 人数 名 新幹線郡山駅(西口) 新幹線福島駅(西口) 在来線二本松駅

お送り 人数 名 新幹線郡山駅(西口) 新幹線福島駅(西口) 在来線二本松駅